

大日本スクリーン製造株式会社 2012年3月期 第3四半期 決算説明会

2012年2月6日

専務取締役 CFO 領 内 修

本日のアジェンダ

2012年3月期 第3四半期連結業績 結果と分析

事業状況と今後の取り組みについて

2012年3月期 通期連結業績予想

資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・フラットパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了承願います。

・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで表記しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

第3四半期決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、

- ・2012年3月期 第3四半期連結業績
- ・事業状況と今後の取り組み
- ・2012年3月期 通期連結業績予想

につきまして、ご説明させていただきます。

3Q 連結業績結果

2012年3月期 3Q 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期					2012年3月期				
	実績					実績				前年同期比
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	1Q	2Q	3Q	累計	累計
売上高	514	589	662	1,766	783	645	584	502	1,732	▲ 33
SE	327	365	495	1,187	554	482	361	289	1,133	▲ 54
FE	82	92	61	236	90	51	93	104	248	12
MP	103	130	103	337	135	110	128	106	344	7
印刷関連機器 (MT)	89	106	92	288	116	95	114	98	307	19
プリント基板関連機器 (PE)	13	23	11	48	19	14	14	7	36	▲ 11
その他(外部売上のみ)	1	1	1	4	1	1	1	1	4	0
営業利益	46	63	75	186	81	62	27	6	96	▲ 90
SE	49	61	88	199	81	68	24	5	98	▲ 101
FE	6	0	▲ 5	0	▲ 0	▲ 7	▲ 3	4	▲ 5	▲ 6
MP	▲ 9	1	▲ 8	▲ 15	2	2	8	0	11	26
その他および調整額	▲ 0	0	1	1	▲ 2	▲ 1	▲ 1	▲ 4	▲ 7	▲ 9
経常利益	46	63	74	184	80	60	27	2	90	▲ 93
純利益	38	57	77	173	83	47	18	▲ 39	25	▲ 147

3Q特殊要因：

- ・減損損失……28億円
- ・投資有価証券評価損……4億円
- ・税制改正に伴う繰延税金資産の一部取崩……4億円

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

3

DAIIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

当第3四半期（10～12月・3ヵ月間）は、

売上高：502億円

営業利益：6億円

経常利益：2億円

四半期純利益：▲39億円となりました。

第2四半期の半導体関連機器の受注が少なかったことが影響し、当第3四半期の売上高は502億円と低い水準となりました。

事業環境が厳しい中、営業利益につきましては、ほぼ想定通り、6億円を確保しました。

営業外収益における支払利息の増加や為替差損の発生などにより、経常利益は2億円となりました。

また、株価下落に伴う投資有価証券評価損や、FPD機器事業などの固定資産に係る減損損失を特別損失に計上したこと、さらに、税制改正に伴い繰延税金資産を取り崩したことの特殊要因がありました。この結果、当四半期純損失は39億円となりました。

2012年3月期 3Q 連結業績分析

売上高

2Q実績 584億円 3Q実績502億円（前四半期比：82億円減少）

(単位：億円)

セグメント	2Q実績	3Q実績	差額	差異のポイント
SE	361	289	▲72	ファンドリー向けは増加したが、メモリーが大幅減少 バッチ式洗浄装置が大幅減少
FE	93	104	▲11	大型用装置は減少したが、中小型用が増加
MP	128	106	▲21	
MT	114	98	▲15	季節変動要因に加え、円高の影響により減少 北米でのPODの堅調継続
PE	14	7	▲6	電子部品の在庫調整の遅れにより、設備投資は全般的に低調

営業利益

2Q実績 27億円 3Q実績6億円（前四半期比：21億円減少）

(単位：億円)

セグメント	2Q実績	3Q実績	差額	差異のポイント
SE	24	5	▲19	売上減少による減益ではあったが、概ね想定通り
FE	▲3	4	8	売上回復に加え、コスト削減により黒字転換
MP	8	0	▲7	売上減少、円高にもかかわらず、営業利益を確保

4

DAIIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

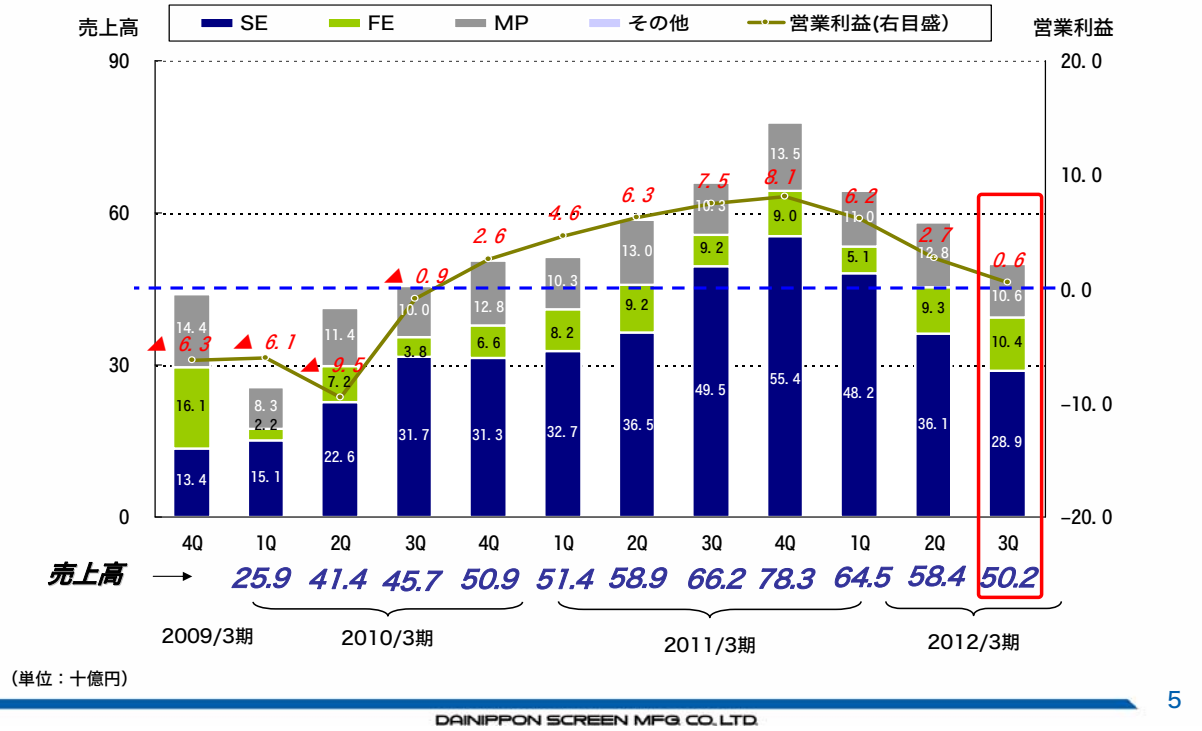
次に、各セグメントについて、第2四半期と比較してご説明します。

SEセグメントにつきましては、ファンドリー向け売上が増加しましたが、メモリー向けが減少しました。製品別では、バッチ式洗浄装置が大幅に減少しました。利益面では、売上が大幅に減少しましたが、固定費削減に努めたことなどにより、営業利益5億円を確保することができました。

FEセグメントにつきましては、従来より搬入が続いているG8装置は減少しましたが、中小型用装置の搬入が開始されたことにより、売上が増加しました。これに伴い、営業利益は黒字を確保することができました。

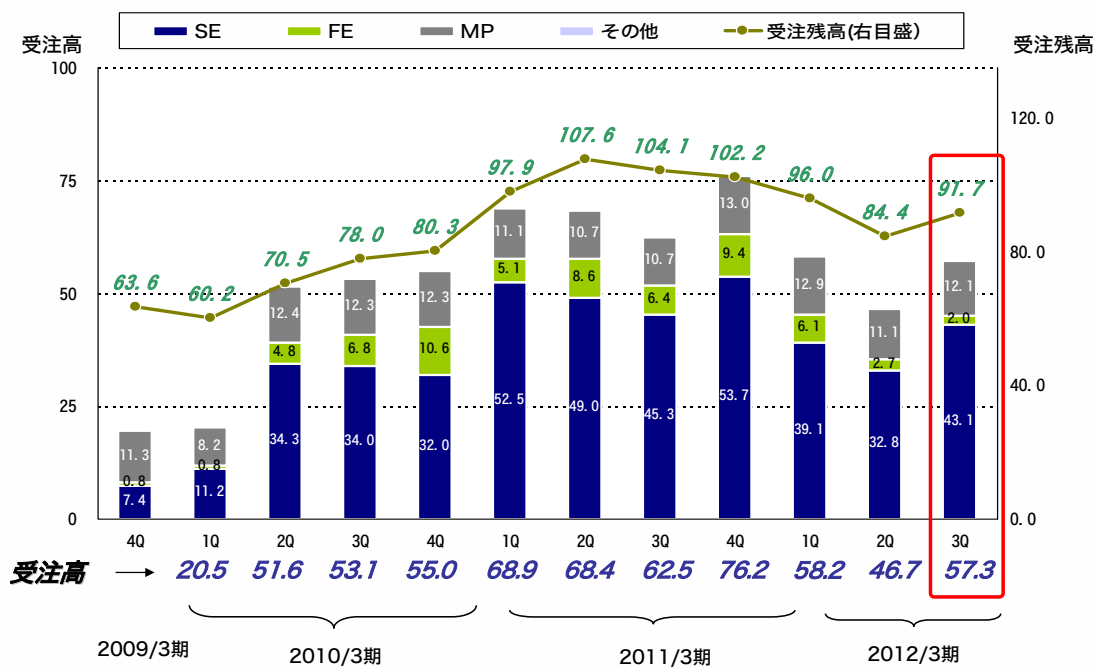
MPセグメントにつきましては、第2四半期に比べ売上は減少しましたが、PODは北米を中心に堅調に推移しました。また、プリント基板関連機器については、国内外での投資が低調であったため、売上が減少しました。営業利益に関しては、売上減少、円高の影響はありましたが、コスト削減、プロダクトミックス改善などにより、黒字を確保することができました。

売上高・営業利益 四半期推移（連結）



このグラフは、全社の売上高と営業利益を示したグラフです。
 各セグメントでご説明いたしましたとおり、第2四半期に比べますと、
 売上高につきましては、FEは増加しましたが、SE、MPが減少しました。
 また、営業利益につきましては、売上が大幅に減少しましたが、コスト
 ダウン、経費削減を一層進め、6億円の営業利益を確保しました。

受注高・受注残高 四半期推移（連結）



(単位：十億円)

DAIIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

6

このグラフは四半期ごとの受注高・受注残高をセグメント別に表したものです。

第3四半期の受注高は、全社で573億円となりました。

SEにおきましては、ファンドリー向けの先端投資が活発化し、第2四半期に比べ31%増加し、431億円となりました。

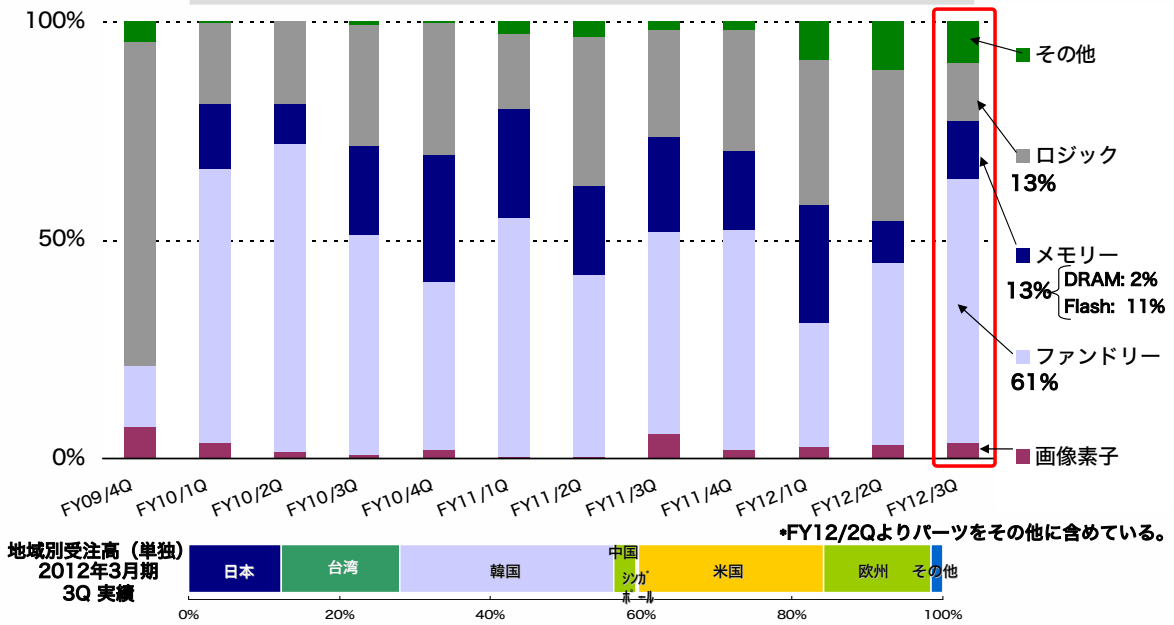
一方、FEにおきましては、液晶パネルの在庫調整が続き、新規の設備投資計画が遅れるなど、受注高は20億円に止まりました。

MPにおきましては、印刷関連機器でPODが海外で堅調に推移しました。また、プリント基板関連機器に関しても海外向け受注が増加しました。その結果、MPセグメントの受注高は121億円となりました。

これらの結果、12月末の受注残高は917億円と、9月末に比べて72億円増加しました。

<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

3Q受注高 : 431 億円 (連結)



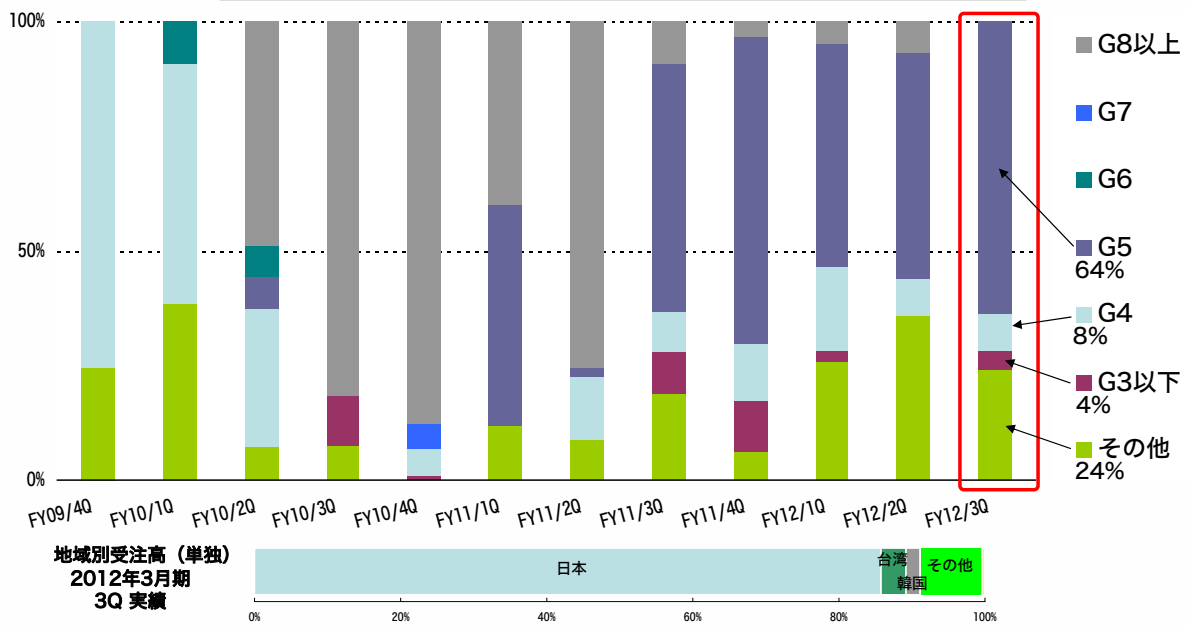
次に、受注の内容に関しまして、SEセグメントにおける半導体デバイス別の受注比率につきましてご説明します。

当第3四半期は、第2四半期に比べて、ロジック向けが減少しましたが、ファンドリー向けが、韓国からのラッシュオーダーにより、大幅に増加しました。また、メモリーに関しましては、DRAM向けは低調が続きましたが、NANDフラッシュメモリー向けは増加しました。

なお、第4四半期の受注見通しにつきましては、第3四半期のラッシュオーダー分の減少は見込まれますが、引き続き微細化投資が牽引し、堅調な状況が続くと見込んでおります。

<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

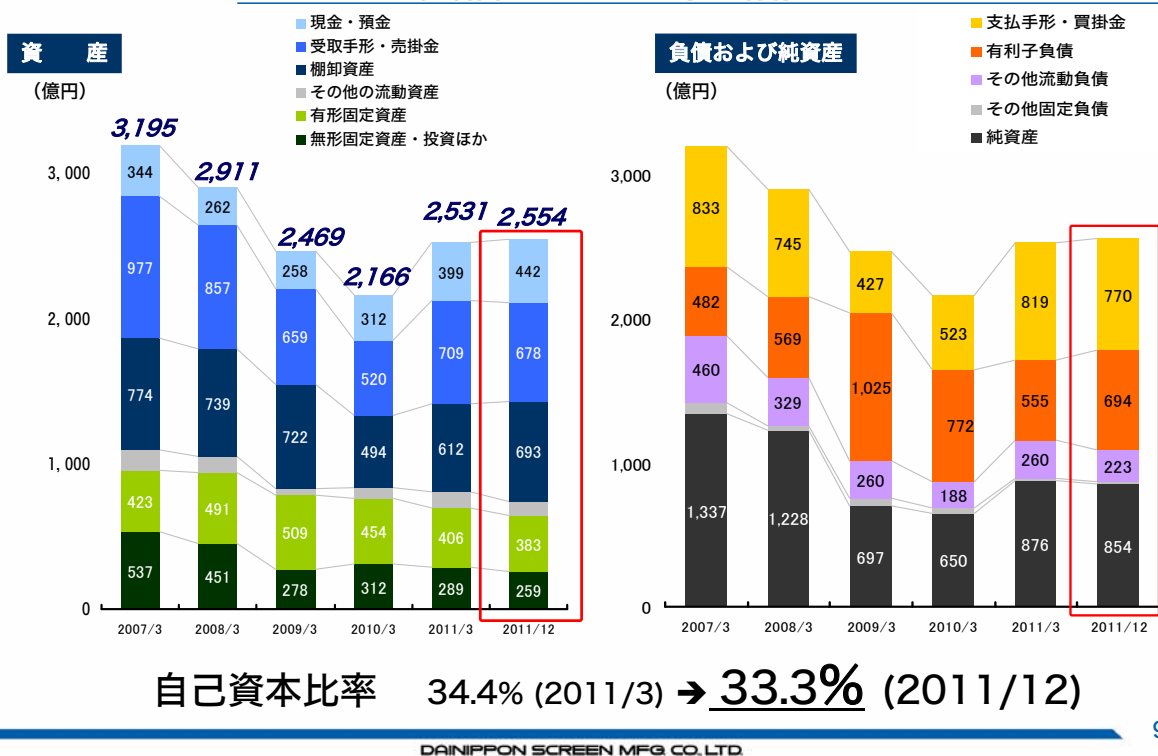
>3Q受注高 : 20 億円 (連結)



FEセグメントの受注に関しましては、当第3四半期は、テレビ向け大型パネル用装置の受注はなく、中小型用も一部増設のみで、非常に低調となりました。

しかしながら、第4四半期の受注見通しにつきましては、国内や韓国における商談状況から、大幅に回復する見込みです。

貸借対照表 (連結)



次に貸借対照表につきまして、ご説明いたします。

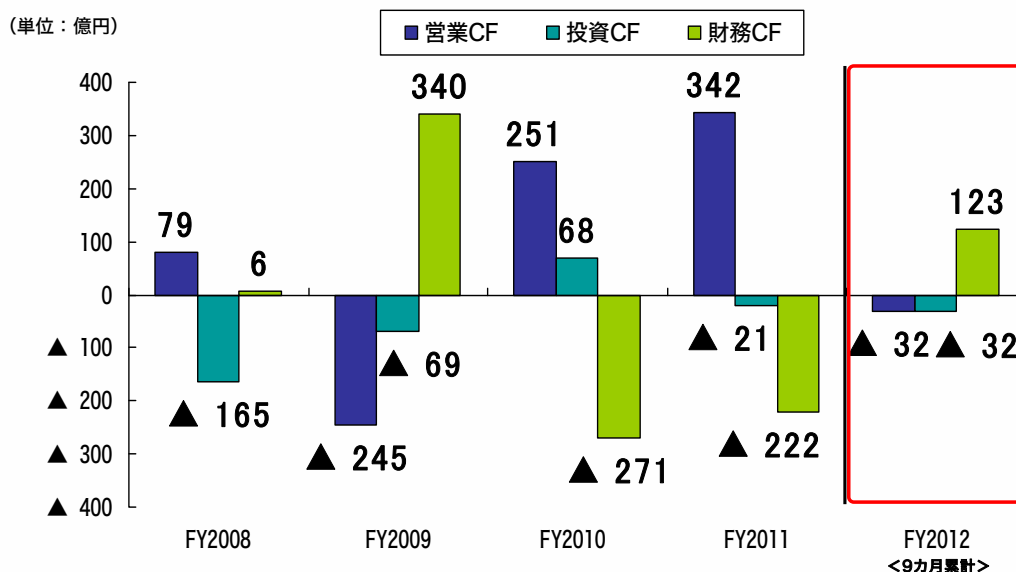
総資産合計は、保有株式の時価下落に伴う投資有価証券の減少はありましたが、受注残増加に伴う、たな卸資産の増加、社債発行に伴う現金及び預金の増加などにより、前期末に比べ23億円増加し、2,554億円となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金や1年内返済予定の長期借入金の減少、社債の増加などにより、前期末に比べ45億円増加し、1,700億円となりました。

純資産の部では、配当金の支払の一方で、四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加しました。また、保有株式の時価下落および円高により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定がそれぞれ減少しました。その結果、純資産合計は、前期末に比べ21億円減少し、854億円となり、自己資本比率は、前期末の34.4%から1.1ポイント低下し、33.3%となりました。

キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：▲65億円



次にキャッシュ・フローの状況です。

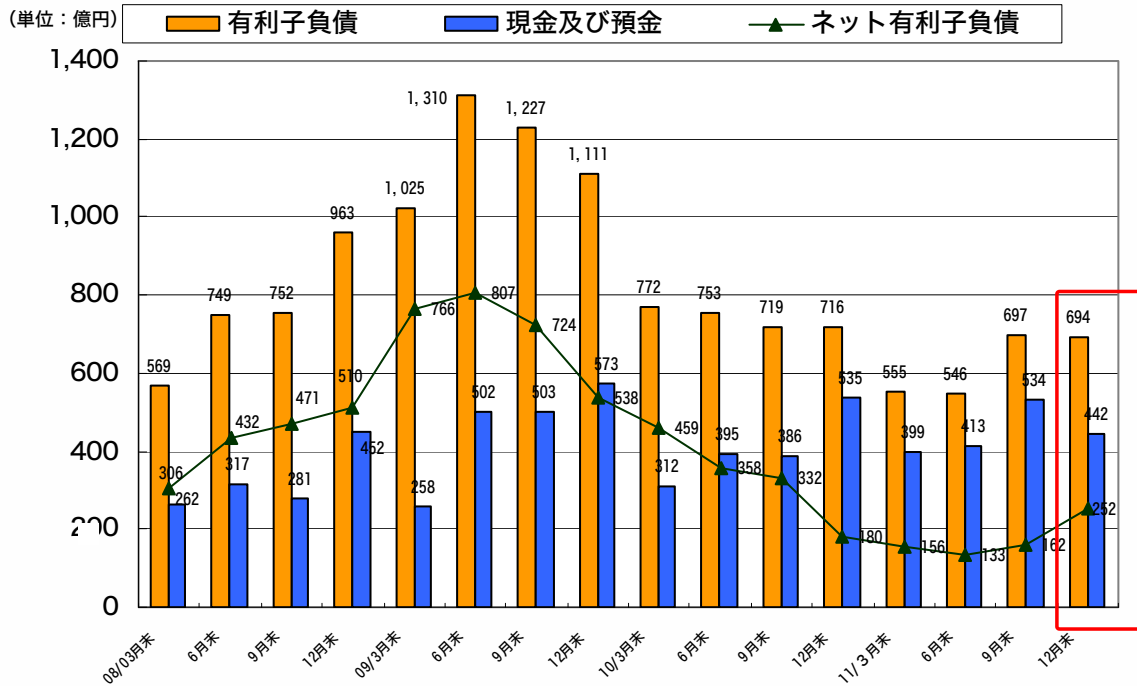
営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加、仕入債務の減少、法人税等の支払いなどの支出項目が、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、売上債権の減少などの収入項目を上回り、32億円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、京都市南区の久世事業所の土地等の有形固定資産を売却した一方で、熊本県の生産拠点用地等の有形固定資産や子会社株式の取得を行った結果、32億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや長期借入金、リース債務の返済の一方で、社債発行を行った結果、123億円の収入となりました。

以上の結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物は、前期末に比べ42億円増加し、426億円となりました。

有利子負債推移(連結)



DAIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

11

当第3四半期末の有利子負債は、9月末に比べ、3億円減少し694億円となりました。また、有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債に関しましては、9月末に比べ89億円増加し、252億円となりました。

なお、2012年3月末におきましては、社債の償還、1年以内の長期借入金の返済等により、純有利子負債は、2012年12月末から減少する見込みです。

事業関連

続きまして、事業の状況に関しまして、セグメント別に説明します。

SE

3Q総括

- 業績は想定通り
- 受注は、ファンドリーの投資が活発化し、ガイドラインを上回る
- スピンスクラバー新製品「SS-3200」をリリース、シェアアップを目指す
- マスクレス直接露光装置「DW-3000」をリリース、後工程に進出

4Qの展望

- 3Qに積み上がった受注残を背景に、4Qは売上回復を見込む
- 微細化、先端投資が牽引し、4Q受注も堅調維持を想定

まずはSEセグメントです。

第2四半期の受注水準が低かったことにより、当第3四半期の売上が低水準になることが予想されておりましたが、結果として、業績は想定通りとなりました。

また、受注に関しましては、ファンドリーからの受注が活発化し、想定を上回りました。

新製品に関しましては、昨年12月にセミコンジャパンで発表しました「スピンスクラバーSS-3200」および「直接露光装置 DW-3000」の2機種は、お客さまでの評価の準備を進めております。スピンスクラバーに関しましては、新製品により、市場シェアアップを図ってまいります。また直接描画装置につきましては、後工程の進出の足がかりとしたいと考えております。

4Qの見通しですが、売上面に関しましては、3Q末の受注残を背景に、売上は急回復する見通しです。また、受注に関しましては、3Qのラッシュオーダー分は減少する見通しですが、微細化投資は継続することから、概ね堅調に推移すると予想しております。

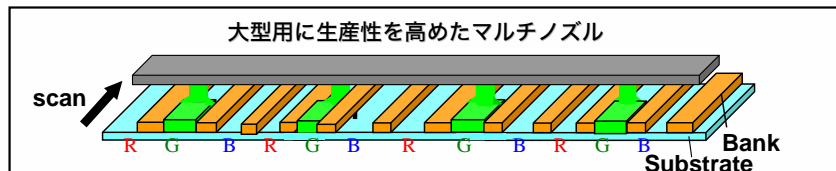
FE

3Q総括

- 売上は堅調であるが、液晶ディスプレイ用新規商談は低調
- 有機EL用ノズルプリンター実験機を出荷

4Qの展望

- 中小型用の投資は継続
- 国内、韓国の引き合い状況より受注回復を期待
- 有機ELテレビ向けにノズルプリンターの受注獲得を目指す



14

DAIIPPON SCREEN MFG CO.LTD

FPD機器事業につきましては、売上は、G8装置に加え、中小型用装置の出荷が始まり、堅調でしたが、受注につきましては、低調に推移しました。

また、かねてから取り組んでおります「有機EL用ノズルプリンター」に関しましては、第3四半期に実験機をお客さまに出荷することができました。

第4四半期の見通しですが、国内と韓国における商談状況から、受注は回復する見通しです。

また、有機ELテレビ向けのノズルプリンターに関しましては、第4四半期でパイロットライン向け装置の受注を獲得し、次の量産ラインの受注へとつなげていきたいと考えております。

MP

3Q総括

- 【MT】
- CTPは新興国向け販売は堅調に推移
 - 中国生産子会社（杭州）へのCTP生産移管は計画通り進行
 - PODは北米向け堅調継続、先進国以外でも市場拡大の動き
 - 日本、欧州、北米で、PODショールームを整備
- 【PE】
- 検査装置は計画通りに推移したが、設備投資は総じて低調

4Qの展望

- 【MT】
- PODの市場拡大に備え、販売体制を強化
 - 「drupa2012」(5/3-16、独/デュッセルドルフ)に向け新製品開発に注力
- 【PE】
- PCB用直接描画装置の拡販。受注拡大を目指す

次にMPセグメントです。

MT（印刷関連機器）に関しましては、CTPは新興国向けが堅調に推移しました。また、中国生産子会社においては、昨年2011年10月に第2工場が竣工し、日本からの生産移管が計画通り進捗しております。

また、PODに関しましては、北米での売上は堅調に推移しております。さらに先進国以外においても、欧州周辺国でPOD市場が広がっております。

これらのPOD市場拡大を確実に受注に結びつけるため、日本（東京）、欧州（オランダ）、米国（シカゴ）にPODのショールームを整備しました。

さらに、4年に1回デュッセルドルフにて開催される世界最大の印刷機材展「drupa」が、今年5月3日から16日まで開催され、これに向け、インクジェット関係の新製品の開発を進めております。

プリント基板関連機器は、当第3四半期は、検査装置の需要はありましたが、電子部品市況の回復の遅れにより、総じて低調に推移しました。その中でも、昨年発表しました、処理能力が高く、競争力のある新製品「Ledia 5(レディア ファイブ)」を中心に、PCB用直接描画装置の拡販に努めてまいります。

半導体分野

設備投資の一時的調整が想定されるが、大きな落ち込みではない。年後半には回復を想定。通年設備投資全体としては2011年（暦年）比▲5%～▲10%と予想。

FPD分野

有機EL向け投資は積極化。液晶は中小型用投資は継続されるが、テレビ用投資が低調となり、設備投資全体では2011年（暦年）比▲40%程度と予想。

印刷機器分野

CTPは、単価下落を台数増加が吸収し、微増。
PODは先進国での普及に加え、新興国でも市場拡大。

さて、2012年の市場環境の見通しに関しましてご説明します。

まず、半導体分野ですが、パソコン需要の停滞により、DRAM専門メーカーの設備投資は調整状況が継続するものの、スマートフォンなどモバイル端末やタブレットPC向けNANDの増産や、微細化ラインの生産能力を増強する大手ファブリーメーカーによる投資継続などの背景から、市場は前年比▲5%～▲10%程度で推移すると考えております。このような環境下においても、当社は、今期同等の売上を来期も確保する見通しです。

FPDに関しまして、有機ELは積極的に投資はされるものの、液晶テレビ向けの大型用装置の投資が抑制されることから、厳しい市場環境が予想されます。当社としては、このような環境下、既存事業での収益改善と新規ビジネスの早期立ち上げを進めてまいります。

印刷機器分野に関しましては、CTPは新興国における販売台数は伸びるものの、廉価であるため、市場規模としては、微増を想定しております。一方、PODに関しましては、日、欧、米の先進国以外におきましても、市場拡大が見られ、今後も増加傾向が続くと考えております。当社はこれに対して、製品ラインアップの充実、販売体制の強化、インフラ整備を進め、売上拡大を図ります。

通期連結業績予想

続きまして、本日発表しました業績予想に関しまして、ご説明いたします。

2012年3月期 通期連結業績予想

想定為替レート: 1USD=75JPY, 1EUR=100JPY

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2012年3月期										2011年 3月期 実績		
	上期		下期				通期						
	実績		11/7予想		今回予想		11/7予想		今回予想				
売上高	1,230		1,260		1,260		2,490		2,490		2,549		
SE	844		810		810		1,654		1,654		1,742		
FE	144		191		191		335		335		327		
MP	MT	238	209	256	222	256	222	495	432	495	432	473	404
	PE		28		34		34		63		63		68
その他(外部売上のみ)	3		3		3		6		6		6		
営業利益	90		50		50		140		140		268		
経常利益	88		42		42		130		130		265		
当期純利益	65		34		0		100		65		256		

年間配当金予想: 1株当たり配当金5円(期末)・・・変更なし

当社は、当第3四半期におきまして、FPD機器事業などの固定資産の減損損失などを特別損失に計上したことや、税制改正に伴い繰延税金資産の一部取崩したことにより、通期の当期純利益予想が、前回予想の100億円を35億円下回り、65億円となる見込みとなりました。

売上高、営業利益、経常利益に関しましては、修正はありません。

なお、今回、当期純利益予想は修正しましたが、期末配当金予想につきましては、変更せずに、5円を維持させていただく予定です。

マクロ経済の見通しが不透明な中、

<SEセグメント>

- ・先端投資を着実に受注に結びつけ、収益確保する
- ・既存製品のシェアアップと事業領域拡大を図る

<FEセグメント>

- ・既存事業での収益改善
- ・有機ELテレビ用ノズルプリンターの実用化を進める

<MPセグメント>

- ・CTPのコスト削減を進める
- ・POD市場の拡大に合わせ、販売体制を強化

中期経営計画「NextStage70」の達成を目指す

最後に、まとめでございます。

欧州債務危機に伴う金融不安により、世界的な景気減速懸念が広がっており、今後の経済状況は予断を許さない状況が予想されます。

このような不透明な状況におきましても、当社は、SEセグメントに関しましては、投資が進められる先端投資の分野におきまして着実に受注獲得し、収益を確保してまいります。

また、既存製品群におきましてシェアアップを目指すとともに、後工程への進出など、事業領域の拡大を進めてまいります。

FEセグメントに関しましては、液晶関連機器は厳しい環境が予想される中、既存事業におきまして収益改善を目指します。また有機EL用装置などの成長分野でのビジネス拡大を進めてまいります。

MPセグメントに関しましては、CTPのコストダウンおよびPODの売上拡大を行なってまいります。

これらの取り組みを通して、中期3カ年経営計画の達成に向け、まい進してまいります。

今後とも、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。